

阿波紙と版表現展 2013

- 和紙とテクノロジー -

展覧会名称	阿波紙と版表現展 2013 - 和紙とテクノロジー -
会期	2013年12月11日(水)～12月23日(月)
展示日	12月9日(月) 13:00～19:00 10日(火) 展示予備日
開館時間	11:00～19:00 (最終入場 18:45 まで)
休館日	月曜日 (祝日の場合は開館、翌火曜休館)
企画	京都市立芸術大学ギャラリー @KCUA
主催	阿波手漉和紙商工業協同組合 (アワガミファクトリー)
会場	京都市立芸術大学ギャラリー @KCUA @KCUA2
観覧料	無料
お問い合わせ	075-334-2204
関連イベント	12月14日(土)15:00- アーティストトーク /17:00- レセプション

この度、アワガミファクトリーは「阿波紙と版表現展 - 和紙とテクノロジー -」を開催致します。

2007年を皮切りに開催を続けてきた「阿波紙と版表現展」は、この度で8回目を迎えることとなりました。地道に継続し続ける事でご縁も確実に増えていくことに意義を感じつつ、開催が慣習化することで新規性や氣勢が薄れることへの懸念もまたよぎります。本年度は継続する事での長短を含めいくつかの区切りを感じ、これまでは東京を中心に出版作家と発表の場を得てきましたが、地場からの発信による伝統の継承を見返し、開催地を当地阿波山川から開催する運びとなりました。また、新たな地域とのつながりも期待し、続けて京都での移動展も開催致します。

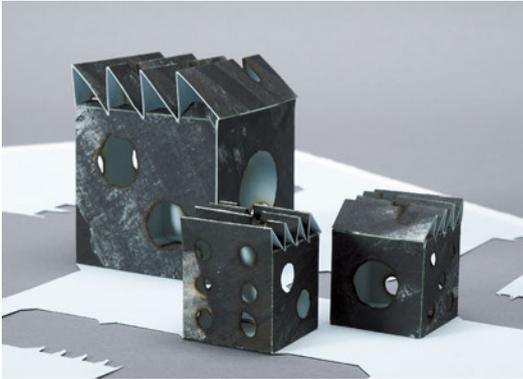
日本人にはかねてより馴染みの素材であった和紙は、時代の流れに伴い需要を減らし、現代ではむしろ新しい素材として存在していると言えます。昨年度から、版表現のひとつとしてインクジェット技法を取り入れたミクストメディアによる美術表現をテーマに掲げ、インクジェット技法を取り入れることで版表現の幅を広げる喚起を目指しました。デジタルの技術・機材の発展に伴い、和紙に求められる機能、そして用途の可能性も広がりつつあります。このテクノロジーの進化と時代への浸透が、版表現のひとつであるインクジェット技法に新しい表現性と価値観を今後も創出し続けていくと考えられます。

この度の8名のアーティストによる AIJP (アワガミ インクジェットペーパー) をベースとしてインクジェットを取り入れた創作技法は、造形、写真、ドローイング、木版、リトグラフなど多様なジャンルに及び、豊かで新鮮な感性に満ちた表現は、現代に生きる伝統とテクノロジーのコラボレートの魅力と可能性を期待せずにはられません。

開催準備にあたり、木村秀樹氏にはアーティストの人選及び京都会場での開催への尽力を頂き、株式会社グラフィックには和紙出力の技術支援を頂きました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

出展作家

木村 秀樹 / 砥綿 正之 / 大島 成己 / 坂井 淳二 / ツツミ アスカ / 加納 俊輔 / 池垣 タダヒコ / ウェイン・イーストコット



木村 秀樹 Hideki Kimura

1948年京都市生まれ。
1974年京都市立芸術大学西洋画科専攻科修了。
現在、京都市立芸術大学教授。

2010年 個展「イムラ・アートギャラリー/京都」、2011年 個展「イムラ・アートギャラリー東京」、2012年「Redefining the Multiple-13 Japanese Printmakers」(テネシー大学附属 Ewing Gallery ~全米各地を巡回)



砥綿 正之 Masayukii Towata

1959年生まれ。
1986年京都市立芸術大学大学院卒。
現在、京都市立芸術大学美術学部構想設計専攻博士課程メディアアート領域教授。

2009年「iris/KYOTO」旧嵯峨御所大覚寺門跡「out of place」展(京都)。
2009-2010年 文化庁新進芸術家在外派遣制度研修生(パリ第8大学)。



大島 成己 Naruki Oshima

1963年大阪生まれ。
2001～2003年デュッセルドルフ芸術アカデミー、
トーマス・ルフ教室在籍。

2004年『第9回ヴェネチアビエンナーレ国際建築展』、2007年『APPEARANCE:写真表現と現代空間の深層』(代官山ヒルサイド・東京)、『写真分離派展:写真+』(2012年/中京大学アートギャラリー)などに出展



坂井 淳二 Junji Sakai

1971年香川県生まれ。
1995年大阪芸術大学美術学科卒業。

2012年「ブラインドサイト - 盲視の知覚 -」(MA2 ギャラリー / 東京)、「International Print Triennial Krakow 2012 Katowice」(Rondo Sztuki / ポーランド)、2013年「第1回 PAT in Kyoto 京都版画トリエンナーレ 2013」(京都市立美術館)、個展「月の錯視」(O ギャラリー / 東京)



ツツミ アスカ Asuka Tsutsumi

1980年京都府生まれ。
2004年京都精華大学大学院芸術研究科版画分野修了。

2011年「第79回版画展」山口源新人賞(京都市美術館)、2012年「ポーランド・日本国際版画展」Roundabout Art Gallery (ポーランド)、「Contemporary Japanese Woodcuts」Pryzmat Gallery (ポーランド)、2013年「第1回京都版画トリエンナーレ」京都市美術館、「Współczesne drzeworyty japo skie」Galeria Sztuki Współczesnej (ポーランド)、「Flowers Story」快意空間(中国)



加納 俊輔 Syunsuke Kanou

1983年大阪府生まれ。
2010年京都嵯峨芸術大学大学院芸術研究科修了。

2012年「かげうつし - 写映・遷移・伝染」(京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA)、「加納俊輔・高橋耕平『パズルと反芻』」(Social Kitchen 他 / 京都 / 2011、island MEDIUM 他 / 2012)、2012年「第15回岡本太郎現代芸術賞」(川崎市岡本太郎美術館)、「SHOWCASE#1 curated by minoru shimizu」(eNarts / 京都)、2013年個展「バウムクーヘンとベタっとした表面」(Maki FineArts / 東京) など。



池垣 タダヒコ Tadahiko Ikegaki

1955年京都府生まれ。
1974～77年メキシコ在住。
1982年嵯峨美術短期大学版画科専攻科修了。
京都市立芸術大学大学院美術研究科博士後期課程単位取得満期退学。
2009年スペイン・バルセロナ、リョチャ美術学校に1年間研修。
現在、京都精華大学芸術学部メディア造形学科版画分野教授。

2011年 明倫茶会 席主（京都芸術センター）、2013年 コレクション展（兵庫県立美術館）。



ウェイン・イーストコット Wayne Eastcott

1943年カナダ、プリティッシュコロンビア生まれ。
1962～66年、バンクーバー美術学校（現在エミリーカー大学）
絵画、版画科を優等で卒業。
1968年、新製版法考案者としてカナダカウンシルグラントを受賞。
1969年、第一回個展をゼロックスとシルクスクリーン、オフセット、そしてリトグラフで開催。1973年、キャピラノカレッジ大学、
1974年、版画科を創設、そしてバンクーバー、ダンドレイブプリントワークショップの開設メンバーとなる。1977年、カナダ王立美術院会員に選ばれる。1983年には版画科芸術院を創設。2003年～05年、共同制作“インターコネクション”プロジェクトを鈴木道子と行う。2012年、キャピラノ大学を退職。
目下のところ基本的にシルクスクリーンとステンシル エナメル、アーカイバルインクジェットプリントと粉状のピグメントを使った紙及びアルミニウムによる作品を制作。1979年よりカナダと日本において個展を開催している。
現在、キャピラノ大学（ノースバンクーバー）芸術教授。